

|               |                                   |
|---------------|-----------------------------------|
| 氏名            | 中 島 寛                             |
| 学 位 の 種 類     | 医 学 博 士                           |
| 学 位 授 与 番 号   | 博 乙 第 2096 号                      |
| 学 位 授 与 の 日 付 | 平成 2 年 3 月 28 日                   |
| 学 位 授 与 の 要 件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）      |
| 学 位 論 文 題 目   | 老人発症慢性関節リウマチの臨床的およびX線学的研究         |
| 論 文 審 査 委 員   | 教授 平木祥夫      教授 太田善介      教授 折田薫三 |

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

60歳以上で発症した慢性関節リウマチ（以下 RA）患者40人（男10人女30人）について臨床的ならびにX線学的に研究した。

臨床的には60歳以上で発症した RA 患者と60歳以下でのそれとの間に、性、RA テスト陽性率、罹患関節、治療効果、予後については差はなかった。しかし、腎不全や肺線維症等の合併症の発生率は60歳以上発症 RA 患者では高かった。長期連用の薬物治療ではその副作用発現などに注意する必要がある。

高齢発症 RA ではX線学上、骨破壊は少ないとする報告が多いが、本研究では65%の例に存在し又は進行していた。一方、Larsen's grade を用いX線学的進行度と性、RA テスト値、Lansbury's index との相関を調べたが、これらと骨破壊との相関はなかった。しかし、血沈値が30mm/時間以上、罹病期間5年以上の患者ではLarsen's grade が高く、骨破壊も強かった。

Single photon absorptiometry を行い、Larsen's grade と橈骨遠位1/6 及び橈骨遠位1/3の部位での骨密度との相関係数を調べた。橈骨遠位1/6 では-0.315、橈骨遠位1/3では-0.403で、1/3の部位がより高い相関関係を示し、骨破壊と橈骨遠位の骨密度の間には相関が認められた。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は60歳以上で発症した慢性関節リウマチについて臨床的ならびにX線学的に研究したものであるが、従来十分解明されていなかった本症の臨床的項目とX線像の経時的变化、さらに骨破壊と橈骨遠位の骨密度との相関について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。